

汽船何丸明細書
 船長ノ氏名及免狀ノ種類
 運轉士ノ氏名及免狀ノ種類
 機關士ノ氏名及免狀ノ種類
 公稱馬力
 旅客定員
 一時間速力
 荷客積卸場
 各寄航場
 營業場
 右之通相違無之候也

汽船航運營業者	住	所	氏	名
---------	---	---	---	---

備考 船舶検査證書ヲ受有スル船舶ニ在リテハ船長公稱馬力及旅客定員ヲ記載セルモ妨ゲナレ

火	曲尺 縱三尺五寸横五尺
藥	地質 赤地
	文字 白地

一 雜 則

商法 第四編……………一

商法施行法(抄録)……………三

海務院官制……………三

海務局官制……………六

海務局支局名稱、位置及管轄區域表……………六

地方海員審判所名稱、位置及管轄區域……………三

燈火管制規則……………三

船舶防空監視規程……………三

雜則

商法第四編

明治三十二年三月最近改正(昭和十三年四月法律第七十二號)

第一章 船舶及船舶所有者

第六百八十四條 本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第六百八十五條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス

第六百八十六條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第六百八十七條 船舶所有權ノ移轉ハ其登記ヲ爲シ且船舶國

商法第四編

籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百八十八條 航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス

第六百八十九條 差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス但其船舶力發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百九十條 船舶所有者ハ船長力其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員力其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶、運送貨及ヒ船舶所有者力其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス

第六百九十一條 登記シタル船舶ノ委付ハ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十二條 船舶所有者力債權者ノ同意ヲ得スシテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ第六百九十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第六百九十三條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六百九十四條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第六百九十五條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第六百九十六條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨濟スル責ニ任ス

第六百九十七條 損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應シテ之ヲ爲ス

第六百九十八條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス

第六百九十九條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ

要ス 船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス

船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第七百條 船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

- 一 船舶ノ讓渡、委付若クハ貨貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト
- 二 船舶ヲ保險ニ付スルコト
- 三 新ニ航海ヲ爲スコト
- 四 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト
- 五 借財ヲ爲スコト

船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百一條 船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

船舶管理人ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第七百二條 船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リ

テ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

社員ノ持分ノ移轉ニ因リ會社ノ所有ニ屬スル船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ合名會社ニ在テハ他ノ社員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在テハ他ノ無限責任社員ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取ルコトヲ得

第七百三條 船舶ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第七百四條 船舶ノ賃借人カ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ

第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス
前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船舶所有者ニ對シテモ其效力ヲ生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第二章 船員

第一節 船長

第七百五條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ船舶所有者、備船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

船長ハ船舶所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免ルルコトヲ得

第七百六條 海員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第七百七條 船長カ已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其ノ選任ニ付キ船舶所有者ニ對シテ其責ニ免ス

第七百八條 船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ要ス

第七百九條 船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

- 一 船舶國籍證書
- 二 海員名簿
- 三 屬具目錄
- 四 航海日誌
- 五 旅客名簿

現行海事法令

六 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類

七 税關ヨリ交付シタル書類

前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限リ命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

第七百十條 船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ荷物ノ積積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第七百十一條 船長ハ航海ノ準備力終ハリタルトキハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セシテ到達港マテ航行スルコトヲ得ス

第七百十二條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

利害關係人ハ船長ノ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十三條 船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
船籍港ニ於テハ船長ハ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

第七百十四條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百十五條 船長ハ船舶ノ修繕費、救助料其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 船舶ヲ抵當ト爲スコト
- 二 借財ヲ爲スコト
- 三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト但第七百十二條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

船長カ積荷ヲ賣却又ハ質入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達スヘカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セザリシ費用ヲ控除スルコトヲ得ス

第七百十六條 船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船長ニ對シテ第六百九十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第七百十七條 船籍港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競買スルコトヲ得

第七百十八條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス

一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ

二 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキ
前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス

第七百十九條 船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第七百十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

第七百二十條 船長ハ遲滞ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第七百二十一條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

商法第四編

第七百二十三條 海員ハ其雇入ノ手續カ終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

第七百二十四條 海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第七百二十五條 海員カ服役中ノ不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三箇月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ其給料ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

第七百二十六條 一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應シテ給料ノ増加ヲ請求スル

第三節 海員

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滞ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第七百二十二條 船長ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第七百二十三條 海員ハ其雇入ノ手續カ終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

第七百二十四條 海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第七百二十五條 海員カ服役中ノ不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三箇月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス

コトヲ得但航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

第七百二十七條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス

海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第七百二十八條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ

二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ

三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ

五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第

四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條 海員カ前條第一項ニ掲ケタル事由ニ因ラス

シテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一箇月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第七百三十條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得

一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ

二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ

三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第七百三十一條 航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有ス

第七百三十二條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其期間

ハ之ヲ一年ニ短縮ス

海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第七百三十三條 雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除ク外船舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸力終ハリタル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百三十四條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 船舶カ沈没シタルコト

二 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト

三 船舶カ捕獲セラレタルコト

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第七百三十五條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得

第三章 運送

第一節 物品運送

第七百三十七條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的

ト爲シタルトキハ各當事者ハ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付スルコトヲ要ス

第七百三十八條 船舶所有者ハ僱船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保ス

第七百三十九條 船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失、船員其他ノ使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第七百四十條 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラスシテ船積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ホス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得

但船長カ之ヲ運送スルトキハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送賃ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ船舶所有者其他ノ利害關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第七百四十一條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ船積スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク僱船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

僱船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間

經過ノ後運送品ヲ船積シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ船積ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス

第七百四十二條 船長方第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ直チニ備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ船積期間内ニ限り備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得

第七百四十三條 備船者ハ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ニ對シテ發航ノ請求ヲ爲スコトヲ得
備船者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ノ外運送品ノ全部ヲ船積セサルニ因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ尙ホ船舶所有者ノ請求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第七百四十四條 船積期間經過ノ後ハ備船者カ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得
前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七百四十五條 發航前ニ於テハ備船者ハ運送貨ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ備船者カ其歸航ノ發航前ニ

拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ之ヲ控除ス

發航前ト雖モ備船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及ヒ荷送人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百四十九條 箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ遲滞ナク運送品ヲ船積スルコトヲ要ス

荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ荷送人ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ之ヲ控除ス

第七百五十條 第七百四十八條ノ規定ハ荷送人カ契約ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第七百五十一條 備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スルコトヲ要ス

第七百五十二條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長ハ遲滞ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ

契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス他港ヨリ船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テ備船者カ其船積港ヲ發スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ亦同シ
運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ備船者之ヲ負擔ス

備船者カ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲ササリシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百四十六條 備船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨ノ費用及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス

前條第二項ノ場合ニ於テハ備船者ハ前項ニ掲ケタルモノノ外運送品ノ價格ニ應シ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百四十七條 發航後ニ於テハ備船者ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フ外第七百五十三條第一項ニ定メタル債務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲メニ生スヘキ損害ヲ賠償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス
箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷受人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ遲滞ナク運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス

第七百五十三條 荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ運送貨、附隨ノ費用、立替金、碇泊料及ヒ運送品ノ價格ニ應シ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

船長ハ前項ニ定メタル金額ノ支拂ト引換ニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ要セス

第七百五十四條 荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキハ船長ハ之ヲ供託スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

荷受人カ確知スルコト能ハサルトキ又ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコト

ヲ要ス此場合ニ於テハ遲滞ナク備船者又ハ荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第七百五十五條 運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送貨ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第七百五十六條 期間ヲ以テ運送貨ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品ノ船積著手ノ日ヨリ其陸揚終了ノ日マテノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但船積力不可抗力ニ因リ發航港若クハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲スヘキトキ又ハ航海ノ途中ニ於テ船積ヲ修繕スヘキトキハ其期間ハ之ヲ算入セス第七百四十一條第二項又ハ第七百五十二條第二項ノ場合ニ於テ船積期間又ハ陸揚期間經過ノ後運送品ノ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同シ

第七百五十七條 船舶所有者ハ第七百五十三條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受クル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

船長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上ニ權利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者カ其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十八條 船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサ

ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百六十二條 第七百六十條第一項第二號及ヒ前條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ備船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カラシメサル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ船積スルコトヲ得

備船者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハント欲スルトキハ遲滞ナク運送品ノ陸揚又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス若シ其陸揚又ハ船積ヲ怠リタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百六十三條 第七百六十條及ヒ第七百六十一條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百六十四條 船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船長カ第七百五十五條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ質入シタルトキ
- 二 船長カ第七百五十九條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ

ルトキハ備船者又ハ荷送人ニ對スル請求權ヲ失フ但備船者又ハ荷送人ハ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第七百五十九條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有者ノミ其第三者ニ對シテ履行ノ責ニ任ス但第六百九十九條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第七百六十條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

- 一 第七百三十四條第一項ニ掲ケタル事由
- 二 運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト

第七百三十四條第一項ニ掲ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百六十一條 航海又ハ運送カ法令ニ反スルニ至リタルトキ其他不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ各當事者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨

三 船長カ第七百八十八條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第七百六十五條 船舶所有者ノ備船者、荷送人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第七百六十六條 第五百六十六條、第五百七十六條乃至第五百八十一條及ヒ第五百八十八條ノ規定ハ船舶所有者ニ之ヲ準用ス

- 一 船舶ノ名稱及ヒ國籍
- 二 船長カ船荷證券ヲ作ラサルトキハ船長ノ氏名
- 三 運送品ノ種類、重量若クハ容積及ヒ其荷造ノ種類、箇數並ニ記號
- 四 備船者又ハ荷送人ノ氏名又ハ商號
- 五 荷受人ノ氏名若クハ商號

六 船籍港

七 陸揚港但發航後備船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定ス
ヘキトキハ其之ヲ指定スヘキ港

八 運送貨

九 數通ノ船荷證券ヲ作りタルトキハ其員數
十 船荷證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第七百七十條 備船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ
請求ニ因リ船荷證券ノ謄本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ
要ス

第七百七十一條 陸揚港ニ於テハ船長ハ數通ノ船荷證券中ノ
一通ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其引
渡ヲ拒ムコトヲ得ス

第七百七十二條 陸揚港外ニ於テハ船長ハ船荷證券ノ各通ノ
返還ヲ受クルニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ得ス

第七百七十三條 二人以上ノ船荷證券所持人カ運送品ノ引渡
ヲ請求シタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託シ且請求
ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船
長カ第七百七十一條ノ規定ニ依リテ運送品ノ一部ヲ引渡シ
タル後他ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於テ
其殘部ニ付キ亦同シ

第七百七十四條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ

其一人カ他ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケ
タルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其效力ヲ失フ

第七百七十五條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ
船長カ未タ運送品ノ引渡ヲ爲ササルトキハ原所持人カ最モ
先ニ發送シ又ハ引渡シタル證券ヲ所持スル者他ノ所持人ニ
先チテ其權利ヲ行フ

第七百七十六條 第五百七十二條乃至第五百七十五條及ヒ第
五百八十四條ノ規定ハ船荷證券ニ之ヲ準用ス

第二節 旅客運送

第七百七十七條 記名ノ乘船切符ハ之ヲ他人ニ讓渡スルコト
ヲ得ス

第七百七十八條 旅客ノ航海中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔ト
ス

第七百七十九條 旅客カ契約ニ依リ船中ニ攜帶スルコトヲ得
ル手荷物ニ付テハ船舶所有者ハ特約アルニ非サレハ別ニ運
送貨ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百八十條 旅客カ乘船時期マテニ船舶ニ乗込マサルトキ
ハ船長ハ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ
於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百八十一條 發航前ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ半額ヲ支拂

ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

發航後ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フニ非サレハ契
約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第七百八十二條 旅客カ發航前ニ死亡、疾病其他一身ニ關ス
ル不可抗力ニ因リテ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルト
キハ船舶所有者ハ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得
前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタルトキハ船舶所有者
ハ其選擇ニ從ヒ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求シ又ハ運送ノ割合
ニ應シテ運送貨ヲ請求スルコトヲ得

第七百八十三條 航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ
船舶所有者ハ其修繕中旅客ニ相當ノ住居及ヒ食料ヲ供スル
コトヲ要ス但旅客ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ他ノ船舶
ヲ以テ上陸港マテ旅客ヲ運送スルコトヲ提供シタルトキハ
此限ニ在ラス

第七百八十四條 旅客運送契約ハ第七百三十四條第一項ニ掲
ケタル事由ニ因リテ終了ス若シ其事由カ航海中ニ生シタル
トキハ旅客ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要
ス

第七百八十五條 旅客カ死亡シタルトキハ船長ハ最モ其相續
人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其船中ニ在ル手荷物ノ處
分ヲ爲スコトヲ要ス

第七百八十六條 第五百九十條、第五百九十一條第一項、第

五百九十二條、第七百三十八條、第七百三十九條、第七百
六十一條及ヒ第七百六十五條ノ規定ハ海上ノ旅客運送ニ之
ヲ準用ス

第七百四十條及ヒ第七百六十四條ノ規定ハ旅客ノ手荷物ニ
之ヲ準用ス

第七百八十七條 旅客運送ヲ爲ス爲メ船舶ノ全部又ハ一部ヲ
以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ船舶所有者ト
備船者トノ關係ニ付テハ前節第一款ノ規定ヲ準用ス

第四章 海損

第七百八十八條 船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免
レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生
シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ共同海損トス

前項ノ規定ハ危險カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ於テ利害
關係人ノ過失者ニ對スル求償ヲ妨ケス

第七百八十九條 共同海損ハ之ニ因リテ保存スルコトヲ得タ
ル船舶又ハ積荷ノ價格ト運送貨ノ半額ト共同海損タル損害
ノ額トノ割合ニ應シテ各利害關係人之ヲ分擔ス

第七百九十條 共同海損ノ分擔額ニ付テハ船舶ノ價格ハ到達
ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トシ積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及ヒ時

ニ於ケル價格トス但積荷ニ付テハ其價格中ヨリ減失ノ場合ニ於テ支拂フコトヲ要セサル運送貨其他ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第七百九十一條 前二條ノ規定ニ依リ共同海損ヲ分擔スヘキ者ハ船舶ノ到達又ハ積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存スル價額ノ限度ニ於テノミ其責ニ任ス

第七百九十二條 船舶ニ備附ケタル武器、船員ノ給料、船員及ヒ旅客ノ食料並ニ衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付キ其價額ヲ算入セス但此等ノ物ニ加ヘタル損害ハ他ノ利害關係人ノヲ分擔ス

第七百九十三條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス

甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ但沿岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラス
前二項ニ掲ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第七百九十四條 共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其減失又ハ毀損ノ爲メ支

前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其計算終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第七百九十九條 本章ノ規定ハ船舶カ不可抗力ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲ス爲メニ要スル費用ニ之ヲ準用ス

第五章 海難救助

第八百條 船舶又ハ積荷ノ全部又ハ一部カ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ナクシテ之ヲ救助シタル者ハ其結果ニ對シテ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ得

第八百一條 救助料ニ付キ特約ナキ場合ニ於テ其額ニ付キ爭アルトキハ危險ノ程度、救助ノ結果、救助ノ爲メニ要シタル勞力及ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

第八百二條 海難ニ際シ契約ヲ以テ救助料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク不相當ナルトキハ當事者ハ其増加又ハ減少ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八百三條 救助料ノ額ハ特約ナキトキハ救助セラレタル物ノ價額ニ超ユルコトヲ得ス
先順位ノ先取特權アルトキハ救助料ノ額ハ先取特權者ノ債權額ヲ控除シタル殘額ニ超ユルコトヲ得ス

拂フコトヲ要セザリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス
第五百七十八條ノ規定ハ共同海損ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七百九十五條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ其記載シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス
前二項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ホスヘキ事項ニ付キ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百九十六條 第七百八十九條ノ規定ニ依リテ利害關係人カ共同海損ヲ分擔シタル後船舶、其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部ガ其所有者ニ復シタルトキハ其所有者ハ償金中ヨリ救助料及ヒ一部減失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スルコトヲ要ス

第七百九十七條 船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於テ雙方ノ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突ニ因リテ生シタル損害ハ各船舶ノ所有者平分シテ之ヲ負擔ス

第七百九十八條 共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ因リテ生シタル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

料分配ノ割合ニ付テハ第八百一條ノ規定ヲ準用ス
人命ノ救助ニ從事シタル者モ亦前項ノ規定ニ從ヒテ救助料ノ分配ヲ受クルコトヲ得

第八百五條 救助ニ從事シタル船舶カ汽船ナルトキハ救助料ノ三分ノ二、帆船ナルトキハ其二分ノ一ヲ船舶所有者ニ支拂ヒ其殘額ハ折半シテ之ヲ船長及ヒ海員ニ支拂フコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ金額ノ分配ハ船長之ヲ行フ此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス
前二項ノ規定ニ反スル契約ハ無効トス

第八百六條 船長カ前條第二項ノ規定ニ依リ救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海ヲ終ハルマテニ分配案ヲ作り之ヲ海員ニ告示スルコトヲ要ス

第八百七條 海員カ前條ノ分配案ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其告示アリタル後異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル最初ノ港ノ管海官廳ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
管海官廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキハ分配案ヲ更正スルコトヲ得

船長ハ異議ノ落著前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ス
第八百八條 船長カ分配案ノ作成ヲ怠リタルトキハ管海官廳ハ海員ノ請求ニ因リ船長ニ對シテ分配案ノ作成ヲ命スルコ

トヲ得

船長カ前項ノ命令ニ從ハサルトキハ管海官廳ハ分配案ヲ作ルコトヲ得

第八百九條 左ノ場合ニ於テハ救助者ハ救助料ヲ請求スルコトヲ得ス

- 一 故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シタルトキ
- 二 正當ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタルニ拘ハラズ強ヒテ之ニ從事シタルトキ
- 三 救助シタル物品ヲ隠匿シ又ハ濫ニ之ヲ處分シタルトキ

第八百十條 救助者ハ其債權ニ付キ救助シタル積荷ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用ス

第八百十一條 船長ハ救助料ノ債務者ニ代ハリテ其支拂ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

救助料ニ關スル訴訟ニ於テハ船長ハ自ら原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得但其訴ニ付キ言渡シタル判決ハ救助料ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ有ス

第八百十二條 積荷ノ所有者ハ救助セラレタル物ヲ以テ救助料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

ル其價額及ヒ船積並ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

第八百二十條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額トシタルモノト推定ス

第八百二十一條 一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷ノ船積ニ著手シタル時ヲ以テ始マル

荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル但其陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遲延シタルトキハ其終了スヘカリシ時ヲ以テ終ハル

第八百二十二條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百二十三條 海上保險證券ニハ第六百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八百十三條 積荷ノ上ニ存スル先取特權ハ債務者カ其積荷ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其積荷ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

第八百十四條 救助料ノ請求權ハ救助ヲ爲シタル時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六章 保險

第八百十五條 海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ填補ヲ以テ其目的トス

海上保險契約ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除外第三編第十章第一節第一款ノ規定ヲ適用ス

第八百十六條 保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第八百十七條 保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責ニ任ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第八百十八條 船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ保險價額トス

第八百十九條 積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケ

- 一 船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船長ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名
- 二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船積港及ヒ陸揚港

第八百二十四條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フ

保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

到達港ヲ變更シ其實行ニ著手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做ス

第八百二十五條 被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又ハ航路ヲ變更シ其他著シク危險ヲ變更若クハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ホササリシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第八百二十六條

保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ボサス

第八百二十七條

積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第八百二十八條

保險契約ヲ爲スニ當タリ積荷ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其積荷ヲ船積シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス 保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第八百二十九條

保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セズ

- 一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 二 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航當時ノ安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害

ノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ第六百三十六條ノ適用ヲ妨ケス

前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス但其支拂ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ買主ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

第八百三十三條

左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ沈没シタルトキ
- 二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
- 三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ
- 四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ
- 五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六個月間解放セラレサルトキ

第八百三十四條

船舶ノ存否カ六個月間分明ナラサルトキハ其船舶ノ行方ノ知レサルモノトス

保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス

第八百三十五條

第八百三十三條第三號ノ場合ニ於テ船長カ遲滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被

三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶者、荷

送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

四 水先案内料、入港料、燈臺料、檢疫料其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出タシタル通常ノ費用

第八百三十條

共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ其計算ニ關スル費用ヲ算入セスシテ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補スル責ニ任セズ

右ノ損害又ハ費用カ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エタルトキハ保險者ハ其金額ヲ支拂フコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス

第八百三十一條

保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ以テ保險價額ノ一部ヲ填補スル責ニ任ス

第八百三十二條

航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送貨其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險價額ト

保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス

第八百三十六條

被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三個月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ第八百三十三條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百三十七條

委付ハ單純ナルコトヲ要ス

委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得

保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ應シテ之ヲ爲スコトヲ得

第八百三十八條

保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第八百三十九條

保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス

被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第八百四十條

被保險者ハ委付ヲ爲スニ當タリ保險者ニ對シ

保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス
 保險者ハ前項ノ通知ヲ受クルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス
 保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス
第八百四十一條 保險者カ委付ヲ承認セザルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第七章 船舶債權者

第八百四十二條 左ニ掲ケタル債權ヲ有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送貨ノ上ニ先取特權ヲ有ス
 一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費
 二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費
 三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅
 四 水先案内料及ヒ挽船料
 五 救助料及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損
 六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權
 七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權

八 船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造並ニ艦裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ艦裝、食料並ニ燃料ニ關スル債權
 九 第二號、第四號乃至第六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除ク外第六百九十條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權
第八百四十三條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送貨ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニノミ存在ス
第八百四十四條 船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第八百四十二條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ
 同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク但第八百四十二條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セザリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ
 先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラス後ノ航海ニ付テ生シタルモノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノニ先ツ
第八百四十五條 船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ト競

合スル場合ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

第八百四十六條 船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一个月ヲ下ルコトヲ得ス
 先取特權者カ前項ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲サザリシトキハ其先取特權ハ消滅ス

第八百四十七條 船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス
第八百四十二條 第八號ノ先取特權ハ船舶ノ發航ニ因リテ消滅ス

第八百四十八條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得
 船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及フ

第八百四十九條 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得
第八百五十條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第八百五十一條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

附則 (昭和十三年法律第七十二號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十四年勅令第五百十號ヲ以テ昭和十五年一月一日ヨリ施行)

商法施行法（抄録）

明治三十二年三月 最近改正 昭和十三年 法律第四十九號 法律第七十三號

- 第一條 商法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊法ノ規定ヲ適用ス
- 第二條 商事ニ關スル特別ノ法令ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス
- 第三條 特別ノ法令中舊商法ノ規定ニ依ルベキモノト定メタル場合ニ付テハ舊商法ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス
- 第二百二十二條 潮川、港灣及ビ沿岸小航海ノ範圍ハ遞信大臣之ヲ定ム
- 第二百二十七條 商法第五百五十二條第三項ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス
- 商法第五百五十三條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス
- 第二百二十八條 商法第五百五十六條ノ規定ハ商法施行前ニ爲シタル船舶ノ貸借借ニモ亦之ヲ適用ス
- 第二百二十九條 商法第五百五十八條乃至第五百六十八條及ビ

- 第五百七十條乃至第五百七十四條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船長ニモ亦之ヲ適用ス
- 第三百十條 商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ゲタル書類ノ書式ハ遞信大臣之ヲ定ム
- 第三百十一條 委付ノ原因ガ商法施行後ニ生ジタルトキハ其施行前ニ爲シタル保險契約ニ付テモ被保險者ハ商法ノ規定ニ從ヒテ委付ヲ爲スコトヲ得
- 第三百十二條 船舶ノ存否ガ商法施行ノ日ヨリ六ヶ月間分明ナラザルトキハ未ダ舊商法第九百六十六條第一項ノ期間ヲ經過セザルトキト雖モ其船舶ハ行方ノ知レザルモノト看做ス
- 第三百十三條 商法施行ノ際舊商法第九百六十九條第一項ニ定メタル三日ノ期間ガ未ダ滿了ニ至ラザルトキハ商法施行ノ日ヨリ三箇月内ニ商法第六百七十四條ニ定メタル通知ヲ發シテ委付ヲ爲スコトヲ得
- 第三百十四條 船舶ノ先取特權ニ關スル商法ノ規定ハ其施行前ニ發生シタル債權ニ付テモ亦之ヲ適用ス
- 第三百十六條 船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス

海務院官制

昭和十六年十二月十八日 勅令第一一四四號

改正 昭和十七年 四月七日 勅令 第三八二號

- 第一條 海務院ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ水運、船舶、造船、船員其ノ他海事ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二條 海務院ニ長官官房及左ノ五部ヲ置ク
 - 總務部
 - 運輸部
 - 船舶部
 - 船員部
 - 航路部
- 長官官房ニ於テハ人事、文書及會計ニ關スル事務並ニ他ノ主管ニ屬セザル事務ヲ掌ル
- 總務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 海事ニ關スル綜合計畫ノ設定其ノ他重要海事政策ノ綜合調整ニ關スル事項
 - 二 外地海事行政トノ連絡ニ關スル事項
 - 三 水運事業ノ監督及助成ニ關スル事項

- 四 船舶ノ保護ニ關スル事項
- 五 海事情報、海事調査及海事思想普及ニ關スル事項
- 運輸部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 船舶ノ管理ニ關スル事項
 - 二 水上運輸ニ關スル事項
 - 三 港灣運送業ノ監督及助成ニ關スル事項
 - 四 運輸用資材ニ關スル事項
- 船舶部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 造船ニ關スル事業ノ監督及助成ニ關スル事項
 - 二 造船及船舶修繕ニ關スル事項
 - 三 船舶ノ積量測定、検査及登録ニ關スル事項
 - 四 船舶用資材、機裝品其ノ他船舶用品ニ關スル事項
- 船員部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 船員ノ使用ニ關スル事項
 - 二 船員ノ監督及保護ニ關スル事項
 - 三 船員ノ教育及養成ニ關スル事項
 - 四 船員ノ指導及訓練ニ關スル事項
- 航路部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 港務、水路、水先、航法及海難ニ關スル事項
 - 二 燈臺其ノ他ノ航路標識ニ關スル事項
 - 三 航路標識附屬ノ設備ニ依ル氣象觀測ニ關スル事項

現行海事法令

航路部ニ横濱出張所ヲ置キ航路標識用品ノ試験、製造、修繕、調達及配給ニ關スル事項ヲ掌ラシム
横濱出張所長ハ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 海務院ニ左ノ職員ヲ置ク

長官	勅任
次長	勅任 一人
部長	勅任 五人
書記官	專任 九人
事務官	專任 二十三 人
海務官	專任 四人
技師	專任 二十二 人
標識技師	專任 三人
屬	專任 九十九 人
技手	專任 四十 人
標識技手	專任 六百十二 人

内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

前項ニ規定スルモノノ外選信大臣必要ト認ムルトキハ標識技手俸給豫算定額内ニ於テ豫備員トシテ標識技手二十人以内ヲ置クコトヲ得

第四條 前條ノ職員ノ外選信大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ事務官ヲ命ズルコトヲ得

第五條 海務院ニ參與十五人以内ヲ置キ院務ニ參與セシム

參與ハ選信大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ
學識經驗アル者ノ中ヨリ命ゼラレタル參與ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ
參與ハ勅任官ノ待遇トス但シ本官ヲ有スル者ニ付テハ本官ノ受クル待遇ニ依ル

第六條 長官ハ選信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ統理シ所屬職員ヲ指揮監督シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス但シ船員ノ教育及養成ニシテ海軍豫備員候補者トシテ必要ナル事項並ニ船舶保護法ノ施行ニ關スル事項ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第七條 次長ハ長官ヲ佐ケ院務ヲ掌理ス
第八條 部長ハ上官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス
第九條 書記官及事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
第十條 海務官ハ上官ノ命ヲ承ケ海運、造船又ハ船員ノ教育養成若ハ勞務管理ニ關スル事務ヲ掌ル
第十一條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
第十二條 標識技師ハ上官ノ命ヲ承ケ航路標識ノ保守及運用並ニ氣象觀測ヲ掌ル

第十三條 屬ハ上官ノ指揮ヲ受ケ事務ニ從事ス

第十四條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十五條 標識技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ保守及運用並ニ氣象觀測ニ從事ス

第十六條 航路標識ノ種別、名稱及位置ハ選信大臣之ヲ定ム

第十七條 第三條第二項ノ標識技手ハ海務院ノ事務ニ臨時從事セシムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

燈臺局官制ハ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和十七年四月勅令第三八二號)

本令ハ昭和十七年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

海務局官制

昭和十六年十二月十八日
勅令第一一四八號

第一條 海務局ハ逓信大臣ノ管理ニ屬シ水運、船舶、造船、船員、航路、開港港則、開港港則ノ施行ニ直接必要ナル港内ノ行政警察及海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 海務局ノ名稱、位置及管轄區域ハ別表ニ依ル

第三條 海務局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 五人内三人 勅任
- 書記官 專任六人 奏任
- 事務官 專任八人 奏任
- 港務官 專任九人 奏任
- 技師 專任七十人 奏任
- 醫官 專任七人 奏任
- 事務官補 專任百七十七人 判任
- 港務官補 專任四十五人 判任
- 技手 專任百二十九人 判任
- 醫官補 專任四人 判任
- 藥劑手 專任六人 判任

第四條 局長ハ逓信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ其ノ管轄内ノ船員職業紹介所ヲ監督ス但シ海港檢疫ニ關スル事務ニ付テハ厚生大臣ノ指揮監督ヲ承ケ

第五條 書記官及事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第六條 港務官ハ上官ノ命ヲ承ケ開港港則及海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

逓信大臣ハ港務官ノ中ヨリ港長ヲ命ズ

港長タル港務官ハ開港港則ノ施行ニ直接必要ナル港内ノ行政警察ニ關スル事務ニ付テハ水上警察署長ヲ指揮監督ス

港長タル港務官事故アルトキハ局長ハ他ノ海務局官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第七條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第八條 醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ海港檢疫及醫務ヲ掌ル

第九條 事務官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第十條 港務官補ハ上官ノ指揮ヲ受ケ開港港則及海港檢疫ニ關スル事務ニ從事ス

第十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十二條 醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ海港檢疫及醫務ニ從事ス

第十三條 藥劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第十四條 逓信大臣ハ必要ト認ムル地ニ海務局ノ支局ヲ置キ

海務局ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十五條 海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル海務局及海務局支局ハ逓信大臣之ヲ告示ス

第十六條 海務局ニハ海港檢疫費豫算定額内ニ於テ臨時左ノ職員ヲ置クコトヲ得

檢疫員 判任官待遇

(別表)

海務局名稱、位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
橫濱海務局	橫濱市	神奈川縣、靜岡縣、東京府、山梨縣、新潟縣、埼玉縣、群馬縣、千葉縣、茨城縣、栃木縣
名古屋海務局	名古屋市	愛知縣、三重縣、岐阜縣、長野縣、福井縣、石川縣、富山縣
神戸海務局	神戸市	兵庫縣、京都府、大阪府、奈良縣、滋賀縣、鳥取縣、島根縣、岡山縣
門司海務局	門司市	福岡縣、和歌山縣、德島縣、香川縣、愛媛縣、高知縣
函館海務局	函館市	北海道、長崎縣、山口縣、大分縣、佐賀縣、熊本縣、宮崎縣、鹿兒島縣

檢疫醫 奏任官待遇又ハ判任官待遇

前項ノ規定ニ依ル奏任官待遇者ハ通ジテ十四人以内トス

檢疫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢疫ニ關スル事務ニ從事シ檢疫

醫ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢疫ニ關スル技術ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

海務局支局名稱、位置及管轄區域表

昭和十六年十二月十九日
逕信省告示第二四七一號

海務局官制第十四條第一項ノ規定ニ依リ海務局支局ヲ設ク其ノ名稱、位置及管轄區域ハ別表ニ依ル
(別表)

名稱	位置	管轄區域
橫濱海務局東京支局	東京市	東京府 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣
橫濱海務局浦賀支局	神奈川縣三浦郡浦賀町	神奈川縣ノ内横須賀市、鎌倉市、三浦郡、鎌倉郡
橫濱海務局新潟支局	新潟市	新潟縣
橫濱海務局清水支局	清水市	靜岡縣(熱海市、田方郡ノ内網代町、伊東町、宇佐美村、小室村、對馬村及賀茂郡ノ内下田町、稻取町、城東村、下河津村、白濱村、濱崎村、竹麻村ヲ除ク)
橫濱海務局鹽竈支局	鹽竈市	宮城縣 福島縣 岩手縣(九戸郡ヲ除ク) 山形縣
橫濱海務局青森支局	青森市	青森縣 岩手縣ノ内九戸郡 秋田縣
名古屋海務局伏木支局	富山縣射水郡伏木町	富山縣 福井縣(敦賀市、敦賀郡、三方郡、遠敷郡、大飯郡ヲ除ク) 石川縣
神戸海務局大阪支局	大阪市	大阪府 京都府 兵庫縣ノ内尼崎市、和歌山縣(新宮市、西牟婁郡ノ内串本町、江住村、和深村、田並村、有田村、潮岬村及東牟婁郡ヲ除ク) 奈良縣 滋賀縣
神戸海務局相生支局	兵庫縣赤穂郡相生町	兵庫縣ノ内姫路市、飾磨市、揖保郡、赤穂郡、飾磨郡

神戸海務局境支局	鳥取縣西伯郡境町	鳥取縣 島根縣
神戸海務局玉野支局	玉野市	岡山縣(淺口郡、小田郡ヲ除ク) 香川縣
神戸海務局三原支局	三原市	廣島縣(豊田郡木ノ江町、御手洗町、瀬戸田町、東野村、中野村、西野村、大崎南村、大長村、久友村、豊濱村、名荷村、東生口村、西生口村、南生口村、北生口村、高根島村、鷺浦村、安藝郡ノ内上浦刈島村、下浦刈島村、御調郡ノ内土生町、三庄町、大濱村、田熊村、中庄村、三浦村、重井村ヲ除ク) 岡山縣ノ内淺口郡、小田郡、廣島縣豊田郡ノ内木ノ江町、御手洗町、東野村、中野村、西野村、大崎南村、大長村、久友村、豊濱村、安藝郡ノ内上浦刈島村、下浦刈島村、愛媛縣越智郡ノ内宮浦村、岡山縣ノ内瀬戸崎村、盛口村、鏡村關前村
神戸海務局木ノ江支局	廣島縣豊田郡木ノ江町	廣島縣御調郡ノ内土生町、三庄町、大濱村、田熊村、中庄村、三浦村、重井村、豊田郡ノ内瀬戸田町、名荷村、東生口村、西生口村、南生口村、北生口村、高根島村、鷺浦村、愛媛縣越智郡ノ内岩城村、弓削村、東伯方村、西伯方村、生名村
神戸海務局因島支局	廣島縣御調郡土生町	和歌山縣ノ内新宮市、西牟婁郡ノ内串本町、江住村、和深村、田並村、有田村、潮岬村及東牟婁郡
神戸海務局勝浦支局	和歌山縣東牟婁郡勝浦町	德島縣 兵庫縣ノ内三原郡 高知縣安藝郡ノ内甲浦町
神戸海務局撫養支局	德島縣板野郡撫養町	愛媛縣(越智郡ノ内宮浦村、岡山縣ノ内瀬戸崎村、盛口村、鏡村、前村、岩城村、弓削村、(東伯方村、西伯方村、生名村ヲ除ク)
神戸海務局松山支局	松山市	高知縣(安藝郡甲浦町ヲ除ク)
神戸海務局高知支局	高知市	長崎縣(壹岐郡、上縣郡ヲ除ク) 佐賀縣 熊本縣ノ内天草郡
神戸海務局長崎支局	長崎市	福岡縣ノ内久留米市、大牟田市、浮羽郡、三井郡、三浦郡、八女郡、山門郡、三池郡 熊本縣(天草郡ヲ除ク)
神戸海務局大牟田支局	大牟田市	福岡縣ノ内若松市、八幡市、戸畑市、遠賀郡
神戸海務局若松支局	若松市	鹿兒島縣 宮崎縣ノ内南那珂郡 沖繩縣
神戸海務局鹿兒島支局	鹿兒島市	

海務局支局名稱、位置及管轄區域表

函館海務局小樽支局 小樽市
 函館海務局釧路支局 釧路市

〔北海道ノ内後志國、石狩國、天鹽國、北見國（斜里郡、網走郡、常呂郡ヲ除ク）〕
 〔北海道ノ内釧路國、十勝國、根室國、北見國ノ内斜里郡、網走郡、常呂郡、千島國〕

地方海員審判所名稱、位置及管轄區域

昭和二年十月十一日
 遞信省令第四十一號
 改正昭和十六年十二月十九日
 遞信省令第一百十號

地方海員審判所ノ名稱、位置及管轄區域別表ノ通定ム但シ大正十四年勅令第三百二十七號（大正十四年法律第五十二號支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件施行令）第

三條第一項ニ依ル船籍港ノ所在地ハ門司地方海員審判所ノ管轄區域トス

附則

本令ハ昭和二年十月十一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治四十三年遞信省令第十三號ハ之ヲ廢止ス
 本令施行前地方海員審判所ノ理事官ニ於テ審判ノ開始ヲ申立テ又ハ同審判所ニ於テ職權ヲ以テ審判開始ヲ決定シ未ダ確定裁決ヲ經ザル事件ニ付テハ仍從前ノ管轄區域ニ依ル

附則（昭和十六年十二月遞信省令第一百十號）
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

名	稱	位	置	管	轄	區	域			
橫濱地方海員審判所	橫濱市	東京府	神奈川縣	新潟縣	埼玉縣	群馬縣	千葉縣	茨城縣	栃木縣	三重縣
神戸地方海員審判所	神戸市	大阪府	京都府	兵庫縣	奈良縣	滋賀縣	宮城縣	福島縣	岩手縣	山形縣
門司地方海員審判所	門司市	長崎縣	山口縣	廣島縣	和歌山縣	德島縣	香川縣	石川縣	富山縣	高知縣
函館地方海員審判所	函館市	北海道	青森縣	秋田縣	大分縣	佐賀縣	熊本縣	宮崎縣	鹿兒島縣	

地方海員審判所名稱、位置及管轄區域

燈火管制規則

昭和十三年四月公布

内務、陸軍、海軍、省令第一號

昭和十七年六月二日

改正内務、陸軍、海軍、省令第一號

逓信、鐵道省令第一號

第一條 燈火管制ヲ實施シ又ハ其ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ防

空法第八條(同法第十條第二項)ニ於テ準用スル場合(テ含ム)ノ規定ニ依ル光ノ秘匿ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 燈火管制ハ第四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス

警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セララル迄ノ間之ヲ行フ
空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ空襲警報解除ノ發セララル迄ノ間之ヲ行フ

燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル前二項ノ防空警報ハ訓練防空警報トス

第三條 警戒管制又ハ空襲管制中ノ光ノ秘匿ハ日没ヨリ日出迄ノ間第一號表乃至第七號表ニ掲グル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ

燈火管制規則

第四條 第一號表ノ屋外燈(標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク)ニシテ地方長官ノ指定スルモノハ其ノ定ムル期間日没ヨリ日出迄ノ間警戒管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ秘匿スベシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ告示スベシ

第五條 左ノ各號ニ掲グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ

- 一 建築物、車輛、船舶、隧道、地下道等ノ内部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ
- 二 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ地方長官ノ指定スル光

第六條 左ニ掲グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得

- 一 消防、人命救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ
- 二 特別ノ必要ニ因リ警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキ

第七條 第一號表乃至第七號表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官(以下陸海軍司令官ト稱ス)ノ通知ニ依リ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)之ヲ定メ其ノ他ノ區域ハ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス

前項ノ規定ニ依リ難キ海上ノ區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

現行海軍法令

第八條 第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表中ノ許可又ハ指定ハ地方長官之ヲ爲スモノトス

第九條 第一號表、第二號表、第四號表乃至第七號表中隠蔽ト稱スルハ開口部其ノ他ニ覆テ施シ外部ニ對シ漏光ナカラシムルヲ謂フ

第一號表乃至第五號表中遮光ト稱スルハ光源ニ對シ直接覆テ施シ又ハ之ニ準ズル方法ヲ講ジ各表ニ掲グル條件ニ依リ光ヲ遮ルヲ謂フ

第四號表及第五號表中確認距離ト稱スルハ燈火ノ目的ニ應ジ實用ニ適スル程度ニ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ
第一號表、第三號表、第四號表、第五號表及第七號表中透視距離ト稱スルハ光源及其ノ反射光等一切ノ光ヲ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第十條 左ニ掲グル事項ニ關シテハ地方長官又ハ警察署長ハ陸海軍司令官ニ協議スベシ但シ豫メ陸海軍司令官ト協定シタル事項ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

一 第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表ニ依ル許可又ハ指定ヲ爲サントストキ

二 第四條第一項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メントストキ

三 第五條第二號ノ規定ニ依リ光ヲ指定セントストキ

四 空襲管制ノ場合ニ於テ第六條第二號ノ規定ニ依リ許可ヲ爲サントストキ

附則

本令ハ昭和十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

附則

昭和十七年六月二日
内務、陸軍、海軍省令第一號
遞信、鐵道省令第一號

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五號表 船舶關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類	航路關係燈類		航路標識燈	別ニ指示スル所ニ依ル	管制	空襲管制	遮光條件
	橋梁表示燈	航路標識燈ニ類スル燈火					
船燈類	海上衝突豫防法ニ關シテハ船隻ノ航行ニ於テハ船隻ノ航行ニ於テハ船隻ノ航行ニ於テハ		航路標識燈ニ類スル燈火	減光且遮光ノ距離一、〇〇米以下トス	甲	空襲管制	乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 射光ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ 地上ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ
注 ル 合 ム	海上衝突豫防法ニ關シテハ船隻ノ航行ニ於テハ船隻ノ航行ニ於テハ		航路標識燈ニ類スル燈火	減光且遮光ノ距離一、〇〇米以下トス	甲	空襲管制	乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 射光ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ 地上ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ
備 ル 時 點 出 ス ル コ ト	海上衝突豫防法ニ關シテハ船隻ノ航行ニ於テハ船隻ノ航行ニ於テハ		航路標識燈ニ類スル燈火	減光且遮光ノ距離一、〇〇米以下トス	甲	空襲管制	乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 射光ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ 地上ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ
備 ル 時 點 出 ス ル コ ト	海上衝突豫防法ニ關シテハ船隻ノ航行ニ於テハ船隻ノ航行ニ於テハ		航路標識燈ニ類スル燈火	減光且遮光ノ距離一、〇〇米以下トス	甲	空襲管制	乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 射光ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ 地上ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ
備 ル 時 點 出 ス ル コ ト	海上衝突豫防法ニ關シテハ船隻ノ航行ニ於テハ船隻ノ航行ニ於テハ		航路標識燈ニ類スル燈火	減光且遮光ノ距離一、〇〇米以下トス	甲	空襲管制	乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 射光ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ 地上ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ 光源ノ點ヨリ

船舶照明燈類			
船室内照明燈	燈一般船室外照明	起重機ヲ用フル 荷役用船室外照 明燈	探照燈、安全燈 其ノ他ノ火光等 ヲ含ム
消滅燈 減光且遮光 コ燭光以内付下 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル	消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル	消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル	消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル
消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル	消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル	消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル	消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル
光源ノ下 コトガ開口部ニ 向ハザル射	光源ノ下 コトガ開口部ニ 向ハザル射	光源ノ下 コトガ開口部ニ 向ハザル射	光源ノ下 コトガ開口部ニ 向ハザル射

埠頭燈類			
埠頭起重機外燈	屋內各種表示燈	屋外各種表示燈 誘導燈ナキ建 物ノ内燈ヲ建	出札口屋外燈 改札口屋外燈 註集札口屋外 燈ナキ建
減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル	平常ノ儘	消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル	消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル
消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル	消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル	消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル	消滅燈 減光且遮光 ト燭光以下トスル ○燭光以下トスル
光源ノ下 コトガ開口部ニ 向ハザル射	光源ノ下 コトガ開口部ニ 向ハザル射	光源ノ下 コトガ開口部ニ 向ハザル射	光源ノ下 コトガ開口部ニ 向ハザル射

備考 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認め別ニ告示スル場合ニ於テハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ關シテハ警戒管制ノ場
合及空襲管制ノ場合ヲ通ジ警戒管制ノ乙ノ程度ニ依ル

船舶防空監視規程

昭和十七年五月一日
逕信省令第六十八號

第一條 船舶防空監視令(以下令ト稱ス)第一條ノ船舶ハ左ニ掲グル船舶ニシテ無線電信又ハ無線電話ノ施設ヲ有スルモノトス

- 一 日本船舶タル總噸數百噸以上ノ汽船
- 二 日本船舶タル總噸數百五十噸以上ノ機帆船
- 三 前二號ニ掲グルモノノ外逕信大臣ノ告示ヲ以テ指定スル船舶

前項ノ船舶ニハ官廳又ハ公署ノ所有シ又ハ使用スル船舶ハ之ヲ包含セズ

第二條 前條第一項ニ規定スル船舶ノ船長ハ乗組員中ヨリ防空監視ニ従事セシムルヲ適當ト認ムル者ヲ選定シ遲滯ナク第一號様式ニ依リ最寄管海官廳ニ届出ヅベシ

第三條 防空監視員ノ指定ハ第二號様式ニ依ル指定書ヲ船長ニ交付シテ之ヲ爲ス

指定書ノ交付ヲ受ケタル船長ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ當該乗組員ニ傳達スベシ

第四條 防空監視員雇止、疾病其ノ他ノ事由ニ因リ監視ニ從

事スルコト能ハザルニ至リタルトキハ船長ハ之ニ代ルベキ者ヲ選定シ遲滯ナク其ノ旨ヲ最寄管海官廳ニ届出ヅベシ

第五條 防空監視員ノ員數ハ總噸數千噸未満ノ船舶ニ在リテハ五名以上、總噸數千噸以上五千噸未満ノ船舶ニ在リテハ八名以上、總噸數五千噸以上ノ船舶ニ在リテハ十名以上トス

第六條 令第二條ノ陸海軍ノ防空擔當者トハ左ニ掲グル者ヲ謂フ

- 軍司令官
- 師團長
- 要塞司令官
- 鎮守府司令長官
- 警備府司令長官
- 艦隊司令長官
- 海軍艦船ノ長

第七條 令第二條ノ規定ニ依ル報告ハ逕信大臣ノ指示スル所ニ依ルベシ

第八條 船長ハ船橋其ノ他防空監視ニ適當ナル場所ヲ指定シ防空監視員ヲシテ防空監視ニ従事セシムベシ
船長ハ防空監視ニ必要ナル器具竝ニ航空機及艦艇ノ識別一覽表其ノ他ノ參考資料ヲ前項ノ場所ニ常備スベシ

現行海事法令

四〇

- 第九條** 船長ハ第三號様式ニ依ル航空監視日誌ヲ船内ニ備置キ之ニ該當事項ヲ記載スベシ
前項ノ航空監視日誌ハ當該船舶管海官廳所在ノ港ニ入港シタルトキ船長之ヲ當該管海官廳ノ檢閲ニ供スベシ
- 第十條** 航空監視員敵ノ航空機若ハ航空機ヲ搭載スル艦艇又ハ其ノ疑アルモノヲ發見シタルトキハ其ノ種別、數、進行方向、高度等ヲ船長ニ報告スベシ
- 第十一條** 航空監視員ハ監視ニ從事中絶エズ上空及海面ヲ見張リ音響ニ注意スベシ
- 第十二條** 航空監視員ハ監視ニ從事中船長ノ許可ヲ受ケタル第一號様式(用紙ノ大サハ日本標準規格A4)

- 場合ヲ除クノ外指定セラレタル場所ヲ離ルルコトヲ得ズ
- 第十三條** 海務局長必要アリト認ムルトキハ航空監視員ノ指定ヲ取消スコトヲ得
前項ノ取消ハ第四號様式ニ依ル取消書ヲ船長ニ交付シテ之ヲ爲ス
- 第十四條** 船長ハ航空監視員ニ對シ航空機及艦艇ノ識別竝ニ其ノ進行方向ノ判別、高度測定等ニ關シ隨時訓練ヲ爲スベシ

附 則

本令ハ船舶防空監視令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

防空監視員適任者届書

職 務 氏 名	年 齡	備 考
汽(機帆)船 丸(總噸數) 噸		
船舶防空監視規程第二條ノ規定ニ依リ右ノ通届出候也		
昭和 年 月 日		
海務局長 殿	届出者 船長 氏 名 團	

記載心得

- 一、防空監視員適任者ハ當該船舶乗組中ノ甲板部員ヨリ選定スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ他部員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得ルコト
 - 二、備考欄ニハ健康狀態其ノ他防空監視員トシテ適任ナルコトヲ示スニ足ル参考事項ヲ記載スルコト
 - 三、船舶防空監視規程第四條ノ規定ニ依ル届書ナルトキハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記載スルコト
- 第二號様式(用紙ノ大サハ日本標準規格A4)

第 號

船舶防空監視從事者指定書

船 長 氏 名	船 丸(總噸數) 噸
防空監視員 職 務 氏 名	
右者船舶防空監視令ニ依ル 丸防空監視ニ從事スベシ	
昭和 年 月 日	
海務局長 氏 名	海務局長 氏 名
	長 海務局長 印

現行海軍法令

第三號様式（用紙ノ大サハ日本標準規格A4）

九 防空監視日誌

備考	航空機等ノ状況	監視ノ状況	船位		監視時間	監視員	昭和 年 月 日（曜日）	船長 氏 名 團
			緯	經				
			度 分	度 分				
			度 分	度 分				
			度 分	度 分				
			度 分	度 分				
			度 分	度 分				
			度 分	度 分				

記載心得

- 一、監視時間欄ニハ監視員ノ當直時間ヲ本邦標準時ニ依リ二十四時間制ヲ以テ數字ニテ記載スルコト
- 二、監視員欄ニハ防空監視員自ラ署名スルコト
- 三、船位欄ニハ當直終了時ニ於ケル自船ノ位置ヲ記載スルコト
- 四、監視ノ状況欄ニハ敵ノ航空機若ハ航空機ヲ搭載スル艦艇又ハ其ノ疑アルモノノ來襲ノ有無、発見時刻、発見時ニ於ケル船位等ヲ記載スルコト
- 五、航空機等ノ状況欄ニハ発見セル敵航空機及其ノ疑アルモノノ機種機數、進行方向、高度又ハ航空機ヲ搭載スル敵艦艇及其ノ疑アルモノノ艦型、艦艇數、針路、速力等ヲ記載スルコト
- 六、備考欄ニハ天候及氣象ノ概要、自船ノ速力及針路並ニ船舶防空監視規程第十四條ノ規定ニ基ク訓練ノ概要等防空監視上參考トナルベキ事項ヲ記載スルコト

第四號様式（用紙ノ大サハ日本標準規格A4）

船舶防空監視員指定取消書

船 號 九（總噸數 噸）

防 空 監 視 員 職 務 氏 名	
-------------------	--

右者船舶防空監視令ニ依ル 丸防空監視員ノ指定ヲ取消ス

昭和 年 月 日

海務局長 氏 名

海務局長 印

船舶防空監視規程

(出文協承認あ 40018 號)

昭和十四年十一月十五日
昭和十四年十一月十五日
昭和十四年十一月十五日
昭和十四年十一月十五日
印刷發行
增補再版發行
增補訂正印刷
增補訂正發行 (3,000部)



現行海事法令

定價金四圓八拾錢也

編者 海文堂出版部編纂部

發行者 神戶市神戶區元町通三丁目三四〇ノ一 賀集計

印刷者 神戶市葺合區旭通二丁目一八四 金澤英夫

印刷所 神戶市葺合區旭通二丁目一八四 西兵三金澤印刷所

神戶市神戶區元町通三丁目

海文堂出版部

振替口座神戶八一五番

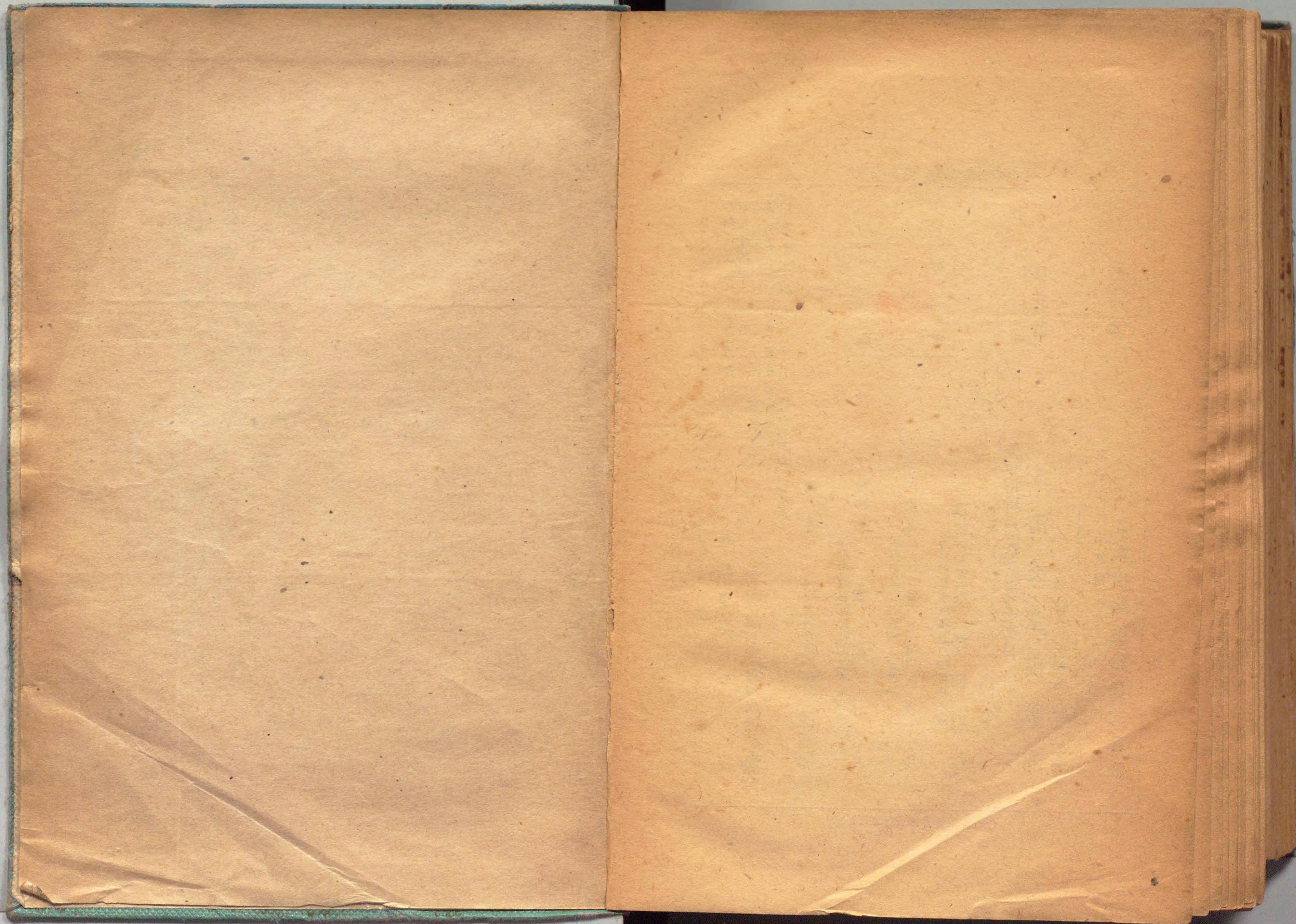
東京市神田區淡路町二ノ九

日本出版配給株式會社

配給元

發行所

(文協會員番號 106528)



14.7
840

